



シビルサポートネットワークニュース

NPO法人シビルサポートネットワーク

2016年10月31日

2016年秋季号

本号の内容

- 秋に語る
・天命
- 事業報告
・「共創プラットフォーム事業化研究会」終了報告
- 活動報告
・第23回CSNサロン報告
「創年のすすめ」
- コラム
・優遊自適
- トピックス
・CNCPアワード2016
で最優秀賞受賞
- CSNのうごき
・8~10月

□ 秋に語る □

天 命

理事 舌間 久芳

1. はじめに

今や、社会的課題を解決していくには、従来の産官学に加えてNPOなるサードセクターの活躍に期待され

るところが大きいと考えます。

その理由としては、今後ますます行政だけでは担うことが困難となった「新しい公共」の領域を、市民サイドに立ち行政と協働で担うセクターとしては、最適であるからです。

NPO組織は創設時にはゼロからのスタートで、

地道に実績を重ねて行政や市民の信頼を獲得して行くところから始められます。

ただ残念なのは自分たちの活動をアピールする手段に乏しく、そ

の存在を広く世間に知らしめる機会がありません。

いかに素晴らしい活動をして、世の中が認知していなければ、それは単なる自己満足の領域で終わってしまいます。これからのNPO活動は、自分たちの活動と成果を世の中に発信していく努力をして欲しいと願っています。

2. 世代交代

今年から18歳から選挙権が国民に与えられました。若者達が己の手で自らの国造りに参画できることは、百年の計らいで真に素晴らしい事です。



舌間理事

明治維新の時代に、20代の若者達が我が国の近代国家への道標を打ちたてようと競って海外に留学し学んだ時代と重ねあわせると、何か昨今の若者達の軸足が違って思えるのです。

世の中は高齢者であふれ、この傾向は益々加速されていきます。若者達に次の世の中を委ねる覚悟があるのであれば、ご老体は選挙権を返上するくらいでも良いと考えています。

ご老体は肩の力を抜き、身軽になってもう一度

世の為人の為に、社会に奉仕することに傾注しても良いのではないのでしょうか。

国は健康寿命の視点に留まらず、生き甲斐の場を明確にすることで、社会保障費用の軽減につながると思います。



3. 安全・安心への妄想

昨今、世界中で起こっている災害やテロ行為、国内でも日々の自然災害などが、ややもすると他人事で終始してしまい、何ごとも「東京オリンピック」が免罪符となり、重要なことが見落とされている気がしてなりません。

自然災害に見舞われた福島、熊本、岩手、北海道もごくごくご近所の出来事にもかかわらず、「東

当 NPO 法人シビルサポートネットワークは、社会的課題を、市民の立場で政策提言をして実行することができる建設系のサードセクターです。

したがって、当法人が、行政や企業、大学などの機関の補佐的な役割に留まることは本意ではありません。もっと NPO は主体的な役割を果たして行くべきと考えます。

5. 「糾合」の役割を果たせ

このたび、社会的課題をソーシャルビジネス (SB) として解決をする「有限責任事業組合 IME」なる提案を、CNCP アワード 2016 に当 NPO が応募したところ、ベスト・アイデア部門で最優秀賞に選定されました。

選定委員会において、1「財政難や技術者不足といった地方自治体（とくに市町村）が抱える社会的課題を解決するために、自治体のインフラの維持管理を総合的に支援する有限責任事業組合を設立し、市区町村の長寿命化修繕計画の実施を支援、後押しするという、正に時宜にかなった提案である」とのご講評をいただいております。

京オリンピック」なる大義を掲げて目眩することは真に不都合千万なお話です。

我々は、永久に平和で安全・安心な国家に暮らせるという妄想を、誰しもが抱かされていないのでしょうか。

識者は、国際化だのグローバル化だのと口々に言いますが、地球規模の出来事に国家万民は対応できているのでしょうか。そんな覚悟を皆さんがお持ちでしょうか。

人のことより自分のことを大切にする風潮は、あってはならないことと思います。

4. 補佐から主役の一人へ

健康高齢者が前向きに働くことができる社会は、まさに支え合い助け合う扶助協働社会です。

社会インフラが高度化し、地域の時間距離が著しく短縮しました

ここ数年で「地方創生大臣」なるものが誕生しました。これは、換言すれば「NPO 担当大臣」とも言っていると思っています。

本事業の立ち上げにあたっては、当 NPO が総力を挙げて具現化させる「糾合」の役を果たさなければなりません。

社会インフラの老朽化対策は、「今やらねば大惨事の素」を後世に残すことになるでしょう。

会員の皆様様の更なるご賢察とご活躍をご祈念申し上げます。



□ 事業報告 □

「共創プラットフォーム事業化研究会」終了報告

埋蔵知財の事業化は成らず

2年間の知見と人脈・新規事業開拓へ役立てよう

「共創プラットフォーム事業化研究会」は、2014年10月NPO法人シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP)をプラットフォームとして立ちあげられた研究会です。担当責任者は、本研究会を提案したCNCP会員のNPO法人シビルサポートネットワークで、建設産業では初のNPOをプラットフォームとした新規事業の創設をめざすものです。

当初、本研究会（フェーズⅠ）は企業の埋蔵知財の事業化の可能性を検討しましたが、やはり埋蔵知財からだけでは新規事業の立ち上げは難しいとの結論に至りました。

そこで、今年度（フェーズⅡ）は「事業化のコツおよび手法を学ぶ、と共に具体的な事業計画書の作成を試みる」を取り組みの目標として活動することになり、昨年10月～今年7月にわたって研究会活動をしてきました。おもな取り組みは下記の通りです。

(1) 共有価値の創造（CSV）の学習

注：企業のCSRを更に進化させ、社会問題の解決と企業利益の創出の両立が企業の新たなビジネス機会をもたらすものとしてCSVが定義されています。

(2) インフラ維持・更新における社会的課題の検討

(3) セオリーオブチェンジの学習

注：事業化のアプローチを大別すると①既存のやり方で社会的課題を解決する②今までになかったアイデアで社会的課題を解決する③考え方そのものを変えていく。セオリーオブチェンジとは③の取り組みです。具体的な事例を示すと、ホームレスの自立支援として始まった「ビッグイシュー」(The Big Issue)です。単にホームレスにお金で支援するのではなく雑誌を作り、ホームレスがそれを路上で販売する。それによって彼らは収入を得るという好循環を作り出すモデルです。

(4) 革新的なビジネスモデルを検討

(5) ビジネスモデルに関わる関連知財の調査

(6) ビジネスモデルに基づいた具体的な事業計画書の作成

(7) 異業種との事業化に関する意見交換会

フェーズⅠ・フェーズⅡの2カ年にわたって中央大学のビジネススクール露木教授に研究のご指導をいただきました。(1)共有価値の創造（CSV）の学習では我が国では先駆的に取り組んでいる野

村総研究所の西尾紀一氏を講師にお招きしました。(3)セオリーオブチェンジの学習では遠路神戸から実績のあるNPO法人しゃらくの小嶋新氏を講師にお招きしました。

(4)革新的なビジネスモデルを作成するに当たってはアイ・エス・エスグループ代表の中村裕司氏を講師としてお招きしてご指導を頂きました。また、(7)異業種との事業化に関する意見交換会では露木先生の取り計らいで大学教員、経営コンサルタント、ベンチャー起業家、ビジネススクールのOB、学生など7名の方々と貴重な意見交換が出来ました。

研究会メンバーは企業の要職の方ばかりでしたが全員がほとんど皆勤に近い出席でした。

本研究会の初期の目的であった埋蔵知財の事業化の取り組みには至りませんでした。参加メンバーの総括を拝見すると本研究会は今後の各企業が取り組む脱請負の中で新規事業の組み立てに役立てる知見と人脈が得られたものと確信しております。

□ 活動報告 □



創年のすすめ

学びあい・活かしあう地域づくりへの提言

講師 福留 強氏

日時 2016年10月17日 15時～17時
 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
 講演 「創年のすすめ」
 講師 NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会
 理事長 福留 強先生

今回はゲストに福留強先生をお招きした。先生は、
 標記NPOを主宰されるかたわら聖徳大学名誉教授
 （生涯学習研究所長）、事業構想大学院大学客員教授
 として、全国的な生涯学習のまちづくりをめざして
 活躍されている。

“創年”とは、創年がまちを変えるという目的と、

「7掛けの年齢」で生きるという意識のもとに、①
 自己を生かし自身をよりよく創り変え、積極的に生
 きようとする生き方、②限られた年齢ではなく、「本
 人が自覚したときから」、③可能性に満ちた壮年時
 代を見直す、という思い
 が込められている。

“熟年”でもなく“シニ
 ア”でもない“創年”で
 ある。

まさに、わがCSNの
 会員にぴったりのテーマ
 であったので関心も高く



18名の参加者があった。

生涯学習というと、一生の勉強と思っている人
 が多いが、先生によると、それは間違いとのこと。

生きがいづくりのため（自己の充実啓発）と、
 儲けるため（生活の向上・職業能力の向上）であ
 り、人生90年を生き抜く力を、これから養うた
 めの挑戦だそうである。

“創年オバサン”たちの手作り弁当で、廃駅寸

前だった肥薩線嘉例川駅（先生の出身地そば）を蘇え
 させた、駅弁「かれい川」物語をはじめ、先生が繰り
 出すエピソードは多岐にわたり、とてもここでご紹介
 しきれものではない。

あとは、この日上梓されたご著書「わくわく創年時
 代年金プラスαの生き方」（東京創作出版）をお読み
 ください。わくわくストーリーが満載されているので
 お勧めしたい。



□ コラム □



会員 服部 希直

『悠々自適』とも書く。むしろこの表現の方が多く使われているかもしれない。高度成長盛んな昭和40年代前半、今は亡き伯父の“シビルエンジニアは地球改造士”だという夢多き言葉に踊らされ、土木の世界に足を突っ込み半世紀近くが経つ。



◆作家の堺屋太一が命名したと最近知った『団塊の世代』—昭和22年から昭和26年ごろに生まれた人—が3、4年前から第一線を退き、第二の人生を迎えている。

私もこの世代の1年先輩になるが、待ちに待った老後ライフ?へ移った。

◆横浜に小さな家と、ちょっとした自慢の庭がある。モノづくりが好きだったのかと、ふと思う。

庭の一角、1坪半ほどの広さで家庭菜園を始めた。今夏もトマト、ピーマン、なすを栽培、少し枯れもしたが新鮮で十分な収穫となった。

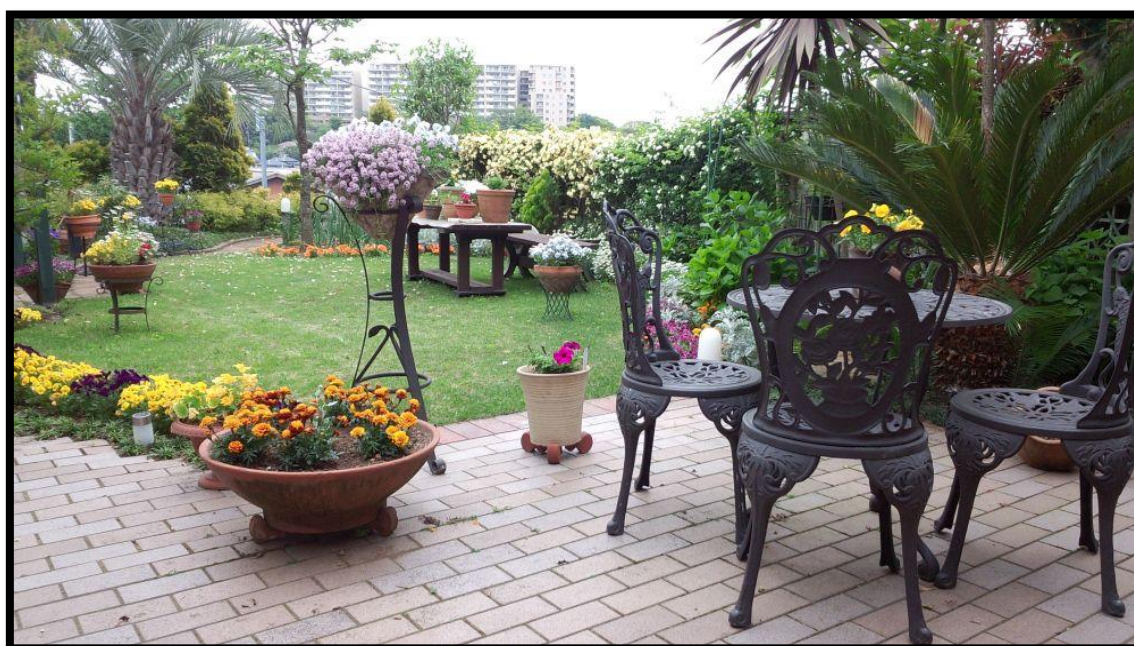
昨冬の青梗菜、ブロッコリー、ホウレンソウは順調に育ったと思いきや、野鳥に食べられ、慌てて網掛けしたが惨めで芯は幼虫の棲みかとなり、散々な目に遭った。



新たな生活には、中途半端なウォーキング、もう上達のないゴルフ、目線が一段高く風切るたびに楽しい発見があるサイクリングなどを組み入れ、気が向いたときは、小学校のころ塾通いしていた書道にも手をだした。

◆しかし何か違う。50歳代後半から描いていた〈悠々自適型老後ライフ〉が、過去のものになりつつある。経済不安や先行き不透明感の表れで心豊かな生活を思いつつも 節約、儉約志向となり、余裕の足を引っ張っている。

65歳にして平均寿命約20年と延びていることも関係あるのだろうか。



◆『悠々自適』—俗事にわずらわされず、自分の思うままに心静かに生活を送ること（大辞林）—長いトンネルを抜けるかのように見えて見えない「アベノミクス」、新しい安定した世の中にもう一度、
も〈悠々自
イフ〉の
望がそれ
もてる時
ることを

向かい『団塊の世代』
さらに次世代に
適型老後ラ
憧れと希
なりに
代が来
願う。

◆こう語れるの
て身体が丈夫で、
活動の場としてお世話になっているコンサルタントの会長のお陰が大きい。
感謝の念に堪えないが、このスタイルを保ちつつ、夢を追っていたい。

も幸いにし
そして何より

□ トピックス □

シビル分野における社会的課題の解決に向けたチャレンジを発掘する

CSN提案「地方自治体のインフラの維持管理を支援する有限責任事業組合」

ベスト・アイデア部門

CNCPアワード 2016 で最優秀賞受賞！

NPO法人シビルNPO連携プラットフォーム（CNCP、土木学会が創立百年記念事業で設立）が募集した、シビル分野における社会的課題の解決をはかる優れた事業のベスト・アイデア部門で、わがCSN提案がみごと最優秀賞に選定された。

その授賞式と提案のプレゼンテーションが、10月31日午後四谷の土木学会ホールでおこなわれた。

CSNの提案は、「財政難や技術者不足により地方自治体（とくに市町村）で社会的課題となっている、インフラ（道路・橋梁）の維持管理を支援するため、シニアエンジニアを活用した有限責任事業組合を設立し、「長寿命化修繕計画」の実施を支援する」というものである。

ベスト・アイデア部門に寄せられた8編の応募から選ばれた。なお、実績を表彰するベスト・プラクティス部門には応募12件から、「土のう工

法の普及活動を通じた未舗装道路整備のインクルーシブビジネス化」のNPO法人道普請人が受賞した。

式には、辻田代表はCNCPの役員のため、代わりに高橋事務局長が出席、15分間のプレゼンテーションもおこなった。



高橋事務局長

山本 CNCP 代表理事

CSNが活動開始して10数年になるが、こうした形で認めていただくのは初めてである。それだけに、うれしさひとしおの受賞であった。

今回の提案は構想段階であるが、受賞理由の一つに、実現への工程が具体的に記載されていることが何よりよい、とあった。

それだけに、CSNのこれからの取り組みがおおいに注目されよう。

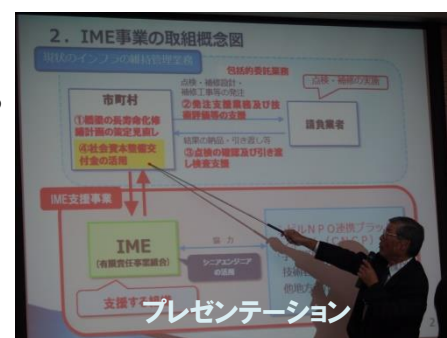
当日の懇親会の席でも、仙台のNPOの方から、まずどこの地区で立ち上げるのか？自分たちも関心を持っている、と声をかけられた。

舌間理事の本号巻頭言を再確認したい。

『当NPOが総力を挙げて具現化させる「糾合」の役を果たさなければなりません。』



受賞者



プレゼンテーション

CSN のうごき

行事・イベント	実施日	参加者
事務局定例会議	8/1、9/5、10/3	辻田、宇佐、高橋
シビルNPO 連携プラットフォーム運営会議	8/9、9/13、 10/14	辻田
CNCP アワード 2016 授賞式およびプレゼン	10/31	辻田、宇佐、高橋、舌間、鈴木、 和久、山田
CNCP 総会	9/10	辻田
第 23 回 CSN サロン	10/17	18 名
CSN 役員懇談会	10/17	辻田、宇佐、高橋、舌間、鈴木、 和久
吉川市 NPO 連携プラットフォーム運営会議	9/28	辻田、高橋
活動報告季刊誌第 15 号発行	11/3	

編集後記

- ◇ CNCP アワードの最優秀賞受賞は、地味な活動をつづけるわが CSN にとって、思わぬ朗報であったと思う。小生も、授賞式という晴れがましい場に立たせてもらえて、一介のスピーカー役にすぎないが、とてもうれしかった。
- ◇ それはいいとして、プレゼン役には面食らってしまった。土木系の建設会社に長年勤務してはいたが、事務系なので土木学会とは無縁であり、まして学会会館に来たことなぞまったくなかった。それが、なんと土木学会のロゴ入り演台から、元学会長をはじめ、その筋のお歴々にプレゼンをする羽目になったのである。
- ◇ 10 月は、プレゼン準備や活動報告編集をはじめ、いろいろな行事が重なって目がまわりそうだった。そんなとき、賛助会員の服部さんからご自宅のガーデニングの美しい写真付きの原稿をいただいた。これをただレポート仕立てにするのはもったいなく、女性誌のグラビア風のきれいなページに出来ないかと工夫した。忙中ながら編集を楽しませていただいた。

(事務局：高橋 肇)